令和元年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

１．研究課題名

地域包括支援センターにおける専門職によるアセスメントの現状把握をふまえた一般住民のためのセルフモニタリングツールの開発

２．研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	井坂　智子	看護学部 看護学科・助教
研究分担者	市川　香織	看護学部 看護学科・教授
	葛西　好美	看護学部 看護学科・准教授
	鈴木　明子	看護学部 看護学科・臨床教員
	時田　礼子	看護学部 看護学科・助教
	八代　裕美子	四街道市地域包括支援センター・保健師

３．連携先団体等

団体名	担当部署
社会福祉法人四街道市社会福祉協議会	四街道市地域包括支援センター

４．研究期間

2019 年度～2021 年度（3 年計画の 1 年目）

５．研究の目的

本研究の目的は、「基本チェックリスト」を用いて一般介護予防事業者（以下、利用者）の状況を把握する専門職のアセスメントの実態を明らかにし、専門職ならではのアセスメントの過程や判断の根拠を加味したセルフモニタリングツールを作成することである。そして、作成したセルフモニタリングツールが、利用者にとって自らの健康状態を把握し維持できることに寄与するか検証していく過程において地域連携を図るものである。

６．研究報告

令和元年度（初年度）は、「一般住民の自立支援を促すセルフモニタリングツール開発のための介護支援専門員によるアセスメントの現状把握」をテーマに、基本チェックリストを用いたアセスメントの現状把握を行った。基本チェックリストとは、日常生活関連動作や運動器の機能、低栄養状態、口腔機能、閉じこもり、認知症、うつの 7 項目について

利用者の状況を評価するツールである。初年度は、インタビュー調査により、それぞれの専門職が行っているアセスメントの過程や判断の根拠、また、基本チェックリストに関する考えについて貴重なデータを得ることができた。

1）地域包括ケアシステムと一般介護予防事業における地域の現状についての学習

研究に先だち、研究フィールドの理解を深めるために、令和元年 6 月に研究分担者である四街道市地域包括支援センター保健師八代氏より、地域包括ケアシステムや一般介護予防事業について、また四街道市の地域特性や一般介護予防事業の活動状況に関して解説していただいた。

2）基本チェックリストによるアセスメントの現状把握

研究は、質的記述的研究とし令和元年 11 月に、センターの介護支援専門員 10 名に、1 人 30 分～1 時間程度のインタビュー調査を行った。インタビュー内容は、1. 基本チェックリストに関する質問として、①普段どのようにアセスメントを行っているか、②アセスメントを行う中で普段から心がけていることは何か、③基本チェックリストを行う上で難しさや不足していると感じた点について尋ねた。2. 受け持った事例に関する質問は、①自立支援を目指すうえで印象に残ったことや困難に感じたこと②印象に残ったことや困難に感じた理由についてであった。得られたデータは逐語録を作成後、基本チェックリストを用いたアセスメントについて述べた文脈、利用者をアセスメントするうえでの考えや気持ちを述べた文脈を抽出し、1 事例ごとにコード化を行った。

令和 2 年度は、コード化したデータについて、意味内容の類似するものの抽象度を上げサブカテゴリー化、さらにサブカテゴリー間の類似点や相違点について検討し、カテゴリー化と質的分析を進め、論文を作成する。また、初年度の研究結果を生かしセルフモニタリングツールの内容を検討していく。

７．成果の公表

対象者の人権と個人情報の保護に配慮し、論文の公表を予定している。

８．総評

<u>四街道市地域包括支援センター</u>

専門職や支援者が何を自立と考えるかによって、アセスメントする視点や支援の方向性が変わるということ、また自立の考え方には個人差が大きいということを理解できたとの評価をいただいた。